

佳作

私の原動力

宮城県古川黎明中学校

2年 佐藤 心晴

「あなたの原動力となっているものは何ですか？」

そう聞かれたら私は真っ先に「人とのつながり」と答えるだろう。今まで生きてきた14年の人生で身をもって感じたことがあるからだ。

私は小学2年生の頃、学校に行きたくない時期があった。いじめられていたわけではなかったが、友達との関係がうまくいかず、小さなことでもめてしまい、学校に行くとお腹や頭が痛くなった。友達に話を合わせないといけないうことや話についていけず、置いていかれてしまうことがどうしても怖かったのだ。当時は担任の先生に伝え、よく保健室で休んでいたが、家に帰りたいとは言えなかった。母や父の迷惑になりたくなかったのかもしれない。その頃、父と母はどちらも平日は休みなく働いていたため、とてもではないが、早退したいから仕事を休んでほしいとは言える雰囲気ではなかった。これは2年生の間ずっと続き、私はこのままなのだろうかかと自己嫌悪にもなっていた。

そんな時、支えてくれたのが母と一人の先生だった。まず母はいち早く私の様子を気づいてくれた。隠し通すのは無理だったのだと思う。母は仕事を昼までに切り上げて、早退する時は迎えに来てくれた。家に帰ると母がいるという安心感が私の心の支えとなった。私の迷惑をかけるかもしれないという思いは変わり、私は自分の気持ちを素直に話すことができるようになっていった。

また、学年が一つ上がり、担任となった先生にはさまざまなことを教えてもらった。その先生は普段はとても優しくだったが、怒る時は厳しかった。私は先生と話すのがとても楽しく、先生の授業が大好きだった。私は先生から人との付き合い方や学校の楽しさを学んだ。思い返してみると、2年生の時の私はやってはいけないことをしている子によく注意をされてしまっていた。そんな私に先生は、

「伝え方を考えてみて？ たとえ相手が悪いことをして注意したとしても伝え方が悪かったら相手は気を悪くしてしまうこともある。伝え方一つで相手の反応も変わってくるよ。」

と言った。それを聞いて私はハッとした。それまでの私は注意することが正義、教えてあげていることが優しさだと思っていた。しかし、それは私の伝え方の問題で相手にうまく伝わっていなかったのである。先生からこう教えてもらったことで相手との関わり方を自分で考え直す、いいきっかけになったと思う。

おかげで私は3年生の時、2年生の頃は行きたくなかった学校に毎日元気に登校することができるようになり、友達関係もうまくいくようになっていった。

現在、私は地元を離れ、古川黎明中学校に通っている。人見知りの性格で悩んでいたそれまでの私からは全く想像ができない挑戦だった。もちろん、知っている人が一人もいない環境に行くことは正直不安で、怖かった。しかし、先生と出会ってからのことを思い出すと、人との関わり方をしっかり考えられるようになったことが自信につながり、受検してみようという気持ちになった。入学してから私はたくさんの友達に恵まれ、楽しく生活している。

私は今陸上部で活動しているのだが、応援でも「人との輪」を感じる。今年の県大会は東北大会出場がかかったレースであった。レース前は自分のベストで走れるのだろうか、東北大会に行けるのだろうかという不安がすごくあった。緊張と不安に押しつぶされそうになっていた私に仲間は、

「走るのはつらくてくじけそうになる。でもそんな時は仲間の応援を思い出して！ こはならでできる。自信持ってけ！」

と言ってくれた。一人で不安になっていた私にとってこの言葉は一人じゃないということを出させてくれる言葉になり、とても心強かった。そして、いざ走り始めると、自分への応援が聞こえてきて、私を前に進める原動力となり、その結果もあり、東北大会出場を果たすことができた。

この14年間の人生で私がいろいろな経験をして感じたことはシンプルかもしれないが、「人とのつながり」は素晴らしいものだということだ。私たちの人生は自分の周りにはいる家族や友達、先生などのつながりで人生や考え方が大きく変わってくる。人を傷つけたり、泣かせてしまったりするのも人であり、人を喜ばせたり、救ったりするのも人なのだ。

私はこれからの人生、自分が助けてもらったり、支えてもらったりしていた人たちのエネルギーになれるように努力していきたい。そして、少しでも自分がやってもらったことへの恩返しにつながればいい。